

「判断推理」問題の指導法について

東教育学部准教授
修士（教育学） 石崎達也

今回、公務員試験合格を目指す授業「公務員試験対策講座」における判断推理問題に関する授業方法、特に、「立体の切断・回転・結合」「立体図形」の授業方法を具体的に見学させていただき、このように指導すれば、学生にわかりやすく、簡潔に教えることができる、そして合格に導くことができるということを理解することができました。

今回ご担当された先生は、今回の問題をペンタブレットを用いて、実際に問題を解くプロセスを見せていましたが、今回のように、色分けして問題文に書き込みながら解き方を理解させる方法は、有効な教え方であると思いました。

以下、中島総長先生が授業中にご指導されていた点として、今回、私自身が重要であると思ったのは以下の点です。

まず、学生が問題の内容について、解説を読んで理解できたかどうかを確認することです。数的処理に関する問題は、解答をそのまま覚えるだけでなく、問題の解き方を暗記することが求められています。今回、総長先生は、「難しい問題は先生がまずわかりやすく、丁寧に解説してください」とおっしゃっていましたが、解き方を覚えられるように丁寧に説明することが大切だと思いました。今回の授業は、先生の解説を聞いた後、類題5題に取り組むと学生が問題の解き方を無理なく理解できる流れになっていました。

次に、解説の途中で先生が、回答を間違った際には、総長先生が、「学生さん、先生も間違えるんだから、安心してください。」とお声かけしていらっしゃいました。先生が間違えることはよくないことですが、数的処理を学ぶ学生さんにとっては、励みになるお言葉だと思いました。

授業の最後に、総長先生は、「今回の問題は、地方公務員の上級の問題だから、これができれば、東京都とか、埼玉県とか、採用試験に合格できるんで、ぜひみなさん勉強していただいて上級を狙ってください。出世コースのための採用試験の問題。身につけて、ぜひ受かってください。応援しますから」と学生たちを激励していらっしゃいましたが、私も公務員試験合格を目指す学生さんを支援し、合格に導ける教師になりたいと思いました。